

第3学年 図画工作科学習指導案

第3学年 21名
指導者 三宅 紀美代
古川 陽
授業場 コンピュータ室

1 題材名 クリスタル ファンタジー A表現(2)立体に表す・B鑑賞

2 題材設定の理由

本題材は、材料の持つ光の透過性や形の面白さを生かして、児童が「つくりたい世界」を立体に表していく活動である。ペットボトルやプリンのカップ、プラスチックのスプーン、卵パックなど一つ一つの素材はシンプルであるが、それらを組み合わせると一つの不思議な空想の世界をつくりだすことができる。児童が様々な素材や形の特徴を組み合わせ、変化していく様子を楽しみ、「何ができるのか」と想像を膨らませながら、「つくりたい世界」を創造できるようにしたい。そして、児童はできあがった作品にLEDライトを置き、光が通るとどのように見え方が変わるのかを確かめ、どのような見え方にしたいのかを試しながら工夫し、光の世界をつくっていくであろう。さらに、学習の最後の時間には児童一人一人が作品を持ち寄って友達と置き方を考えながら一面に並べる。すると、お互いの作品が影響し合う関係を大切にしながら、大きな一つの光の世界をつくり出すであろう。そして、みんなで鑑賞し、認め合ったり、つながり合ったりしていく楽しさを味わうことも期待できる。

本学級の児童は、明るく活発で男女の仲もよく、休み時間には外で元気に遊ぶ姿が見られる。図画工作科の好きな児童が多く、図画工作科の時間を楽しみにしている。4月には「色 形 いいかんじ！」で絵の具を使っていろいろな色をつくり、線や形で表現し、絵に表す楽しさを味わえた。6月に行った「カラフル フレンド」では、透明の袋にお花紙を入れて楽しい「友達」をつくって学校近くの公園に飾り、一枚の写真に収めた。また、7月に行った「ふんわり ふわふわ」では、ポリエチレンの袋にすずらんテープをつけたり、空気を入れて結んだりして、送風機で飛ばして形や色とその面白さを楽しんだ。その中で児童は一度つくったものを試し、また作り直して試すという活動を繰り返す姿が見られた。しかし、大半の児童は楽しく造形活動に取り組むことができているが、中には自分の思いを表すことが苦手だったり、失敗を恐れ、考えすぎて手が止まったりして、なかなか活動に向かえない児童が見受けられた。一人一人の児童の表現活動に差はあるかもしれないが、それぞれの児童が思い付いた発想を基に、自分らしい表現をしてほしいと思った。そこで、本題材では、発想や構想を練る段階で自分の「つくりたい世界」のイメージをしっかりとみせ、自分の思いを表現できるよう支援する必要があると感じた。

指導に当たっては、導入の段階で児童が透明な材料に触れ、並べたり、透かしたりして試し、つくりたいものの発想や構想が広がるようにする。ペットボトルを切り開いたり、ホットボンドを使ったりする技能面は、アトリエタイムの時間を利用して練習しておく。また、参考作品を提示したり、「お試しボックス」と名付けた暗所を設けたりして、透明な材料に光を当てることを試しながら、児童がさらに「こんな風につくってみよう」と発想し、工夫や改善を加えられるようにしていきたい。活動が進まない児童には、友達の作品を見せたり、友達や教師と対話したりして、自分の思いを表現できる方法を見付け、自分の手で表現することができるようにする。そして、最後には児童全員がそれぞれにつくった作品を並べ、光を通して、その幻想的な世界を味わわせたい。

3 題材の目標

- 光を通す材料を組み合わせて立体に表すことを楽しむことができる。
(造形への関心・意欲・態度)
- 光を通すと面白く見える形や色の組合せを考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 思いに合うように材料の組合せ方を工夫することができる。
(創造的な技能)
- 友達と作品を見せ合ってよさや面白さを見付け、感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
光を通す材料を組み合わせて立体に表すことを楽しもうとしている。	光を通すと面白く見える形や色の組合せを考えている。	思いに合うように材料の組合せ方を工夫している。	友達と作品を見せ合ってよさや面白さを見付け、感じ取っている。

5 指導と評価の計画 (全5時間 本時3/5)

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一次 (一時間)	透明な材料に光を通して見え方の変化を感じ、つくりたいものをイメージし、活動についての見通しをもつ。	光を通す材料を組み合わせて立体に表すことを楽しもうとしている。 (観察・発言)	光を通すと面白く見える形や色の組合せを考えている。 (ワークシート)		
第二次 (三時間)	透明な材料を組み合わせて、イメージに合わせてつくる。 (本時3/5)			思いに合うように材料の組合せ方を工夫している。 (観察・発言・表現)	
第三次 (一時間)	作品をみんなで並べ、よさや面白さについて感想を伝え合う。				友達と作品を見せ合ってよさや面白さを見付け、感じ取っている。 (ワークシート)

6 本時

(1) 目標

透明な材料を組み合わせて思い付いたことを表し、そこに光を通して試し考えながら、「つくりたい世界」を工夫して表すことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
5分	1 前時の活動を思い出しながら、本時のめあてを確認する。	前時の活動を振り返りながら、ワークシートを確認させ、本時の見通しをもたせる。 友達のよさを見付け、発想を広げさせる。		
とう明なざいりょうを組み合わせ、光を通して「つくりたい世界」をつくろう。				
35分	2 透明な材料の組合せを試しながら、自分の思いを表現する。	「お試しボックス」で試行しながら、イメージを広げるように促す。 活動の途中で、表し方のよさを紹介し、その思いを認め励ましたり、参考にさせたりしてお互いの活動意欲を高める。	思いに合うように材料の組合せ方を工夫している。 【創造的な技能】	観察 (デジタルカメラ) 発言 表現
5分	3 本時の活動を振り返り、友達と互いにつくったもののよさや工夫を楽しむ。	それぞれの表現のよさや面白さを賞賛し、次時の活動への意欲を高める。		

(3) 評価および指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	<ul style="list-style-type: none"> 自分のつくりたいもののイメージを膨らませて、透明な材料の形や大きさを工夫して組み合わせてつくり、光を当てたときの色を考え、自分のイメージした世界を十分表現している。 <p style="text-align: right;">【創造的な技能】</p>
「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 観察や対話から児童の思いを見取り、参考作品や友達の表現を見せ、つくりたいものの工夫の仕方を見付けることができるようにする。 <p style="text-align: right;">【創造的な技能】</p>